

岡山県感染症週報 2016年 第34週 (8月22日～8月28日)

岡山県では『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

◆2016年 第34週 (8/22～8/28) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第33週 2類感染症 結核 1名 (50代 男)
 第34週 2類感染症 結核 2名 (70代 男 1名・女 1名)
 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 6名
 (O157:小学生 男 1名、30代 男 1名、40代 男 1名・女 2名、
 O群不明:40代 女 1名)
 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名 (40代 男)
 侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (60代 男)
 梅毒 1名 (20代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数: インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○流行性耳下腺炎は、県全体で 68 名 (定点あたり 1.43 → 1.26 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。

【第35週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O165:小学生 男) の発生がありました。(8月30日)

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第34週に6名の報告があり、2016年第34週まで(～8/28)の累計報告数は28名となりました。さらに第35週(8/30)にも1名の報告があり、患者の発生が続いています。今後もこの傾向が続く可能性があることから、岡山県は8月26日に「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。県内の発生状況など、詳しくは、「**今週の注目感染症**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!**』をご覧ください。
2. **流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)**は、県全体で68名(定点あたり1.43 → 1.26人)の報告があり、前週よりわずかに減少しましたが、依然として過去10年間の同時期と比較して多い状態で推移しています。地域別では、倉敷市(2.82人)、岡山市(1.71人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、予後は一般に良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあり、年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡		RSウイルス感染症	⬇	★
咽頭結膜熱	⬆	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⬆	★★
感染性胃腸炎	⬆	★	水痘	⬆	★
手足口病	⬆	★	伝染性紅斑	⬆	★
突発性発疹	➡	★★	百日咳	⬇	
ヘルパンギーナ	⬆	★	流行性耳下腺炎	⬆	★★★★
急性出血性結膜炎	⬆	★★★	流行性角結膜炎	⬆	★
細菌性髄膜炎	➡		無菌性髄膜炎	➡	
マイコプラズマ肺炎	⬇		クラミジア肺炎	➡	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移: ⬆: 大幅な増加 ⬆: 増加 ➡: ほぼ増減なし ⬇: 大幅な減少 ⬆: 減少
 大幅: 前週比100%以上の増減 増加・減少: 前週比10～100%未満の増減

発生状況: 今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白: 発生なし ★: わずか ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

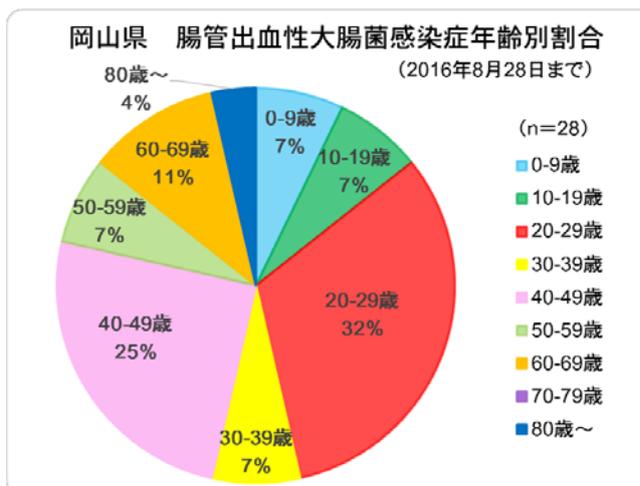
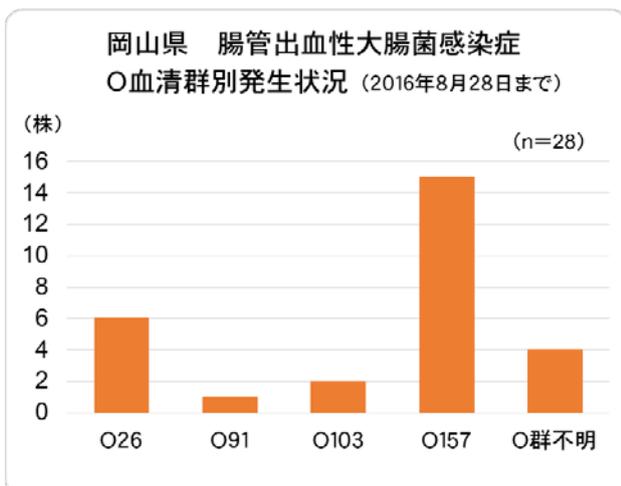
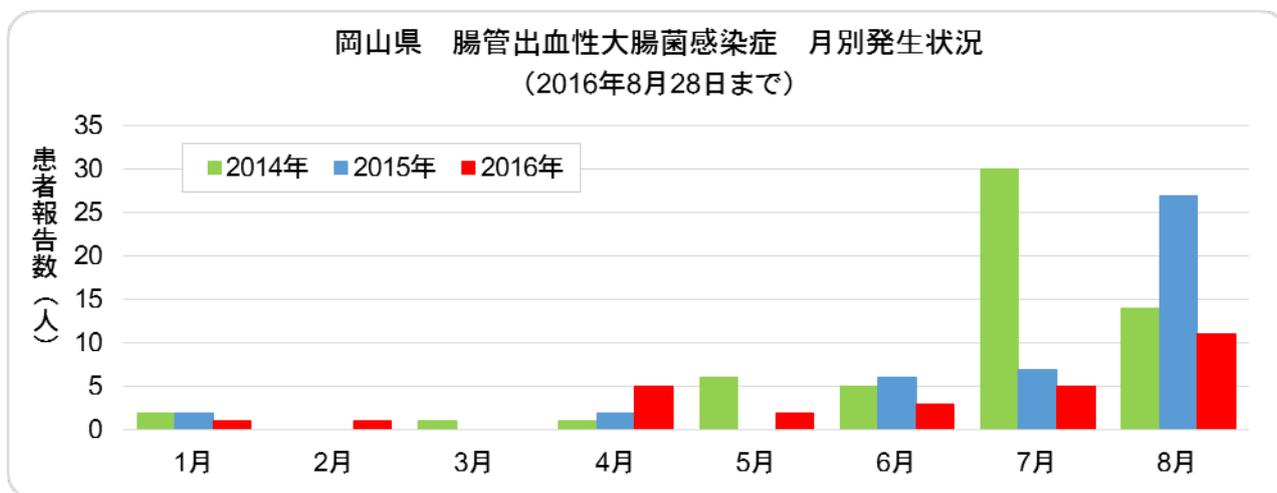
今週の注目感染症

腸管出血性大腸菌感染症

【岡山県の発生状況】

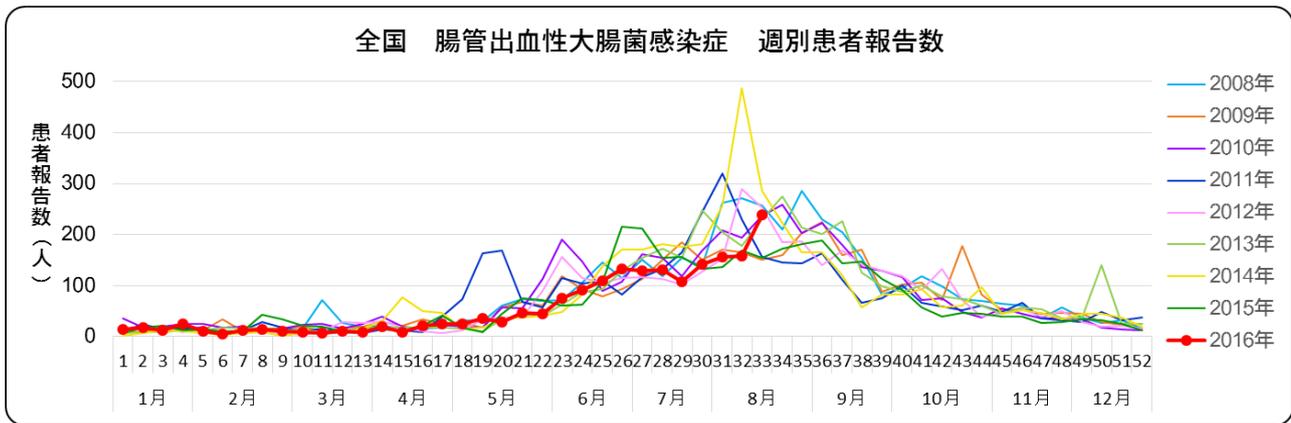
岡山県では、第34週に6名の報告があり、2016年第34週まで（～8/28）の累計報告数は28名となりました。過去10年間の同時期と比較して少ない状態ですが、7月の患者報告数が5名に対して、8月は11名と急激に増加しています。2016年に検出された菌のO血清群は、O157 15株、O26 6株、O群不明 4株、O103 2株、O91 1株で、O157の発生が多くなっています。年齢別割合は、20-29歳 32%、40-49歳 25%、60-69歳 11%の順で高くなっています。2016年第34週までに、重症合併症の1つである溶血性尿毒症症候群（HUS）発症の報告はありませんが、抵抗力の弱い子供や高齢者などでは、重症化しやすいので注意が必要です。

この感染症は、季節に関係なく年間を通して発生しますが、例年、夏から秋にかけて患者の発生が最も多くなります。この季節、細菌が増殖しやすい高温多湿な環境になっていますので、手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。



【全国の発生状況】

2016年第33週まで（～8/21）の全国の累計報告数は、1,880名でした。第33週には、保育施設における集団感染事例が複数報告されており、患者報告数が増加しています。溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症は、第32週まで（～8/14）に35例（累計報告数1,624名中）の報告があり、死亡例も5例報告されています。



【主な感染経路】

O157をはじめとするペロ毒素産生性（志賀毒素産生性）の腸管出血性大腸菌で汚染された食物などを、摂取することによって感染します。また、感染者の便には菌が排出されるため、人から人への二次感染も起こります。

【症 状】

多くの場合、3～5日の潜伏期において、軽度の発熱とともに、激しい腹痛、水様性下痢、血便などの症状がでます。まれに下痢などの症状がでて数日から2週間以内に、溶血性尿毒症症候群（HUS）または脳症などの重症合併症を発症し、死に至ることもあります。

【予 防】

汚染食品からの感染が主体であることから、食品を十分加熱する、調理後の食品は速やかに食べきるなどの注意が必要です。特に、生肉または加熱不十分な食肉を食べないようにすることが重要です。人から人への二次感染については、手洗いの徹底等により予防することができます。特に、保育施設や老人福祉施設における集団発生が例年多いため、オムツや便の処理、手洗いなどに注意しましょう。

[腸管出血性大腸菌感染症とは \(国立感染症研究所\)](#)
[腸管出血性大腸菌 Q&A \(厚生労働省\)](#)

◆◆◆ 食中毒予防の 3 原則 ◆◆◆

- 「清潔」（菌をつけない）
 - ・調理前、食事前、用便後には、手をよく洗いましょう。
 - ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄消毒を行いましょう。
- 「迅速・冷却」（菌を増やさない）
 - ・生鮮食品、調理したものは、できるだけ早く食べましょう。
 - ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
- 「加熱」（菌をやっつける）
 - ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
 - ・特に、食肉等は中心部まで十分に火を通しましょう。（食肉の生食は避けましょう。）

(岡山県生活衛生課 HP より)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント \(厚生労働省\)](#)

保健所別報告患者数 2016年 34週(定点把握)

(2016/08/22~2016/08/28)

2016年9月1日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	8	0.15	-	-	3	0.27	-	-	1	0.14	-	-	-	-	4	0.67
咽頭結膜熱	18	0.33	10	0.71	1	0.09	-	-	3	0.43	2	0.50	1	0.50	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	0.61	2	0.14	15	1.36	4	0.40	3	0.43	-	-	2	1.00	7	1.17
感染性胃腸炎	230	4.26	43	3.07	57	5.18	46	4.60	21	3.00	23	5.75	12	6.00	28	4.67
水痘	18	0.33	8	0.57	3	0.27	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	5	0.83
手足口病	21	0.39	11	0.79	1	0.09	-	-	-	-	2	0.50	1	0.50	6	1.00
伝染性紅斑	3	0.06	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
突発性発疹	34	0.63	11	0.79	7	0.64	5	0.50	1	0.14	4	1.00	1	0.50	5	0.83
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	30	0.56	12	0.86	8	0.73	2	0.20	5	0.71	-	-	1	0.50	2	0.33
流行性耳下腺炎	68	1.26	24	1.71	31	2.82	8	0.80	3	0.43	1	0.25	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	1	0.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2016年 34週(発生レベル設定疾患)

(2016/08/22～2016/08/28)

2016年9月1日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	18	0.33	10	0.71	1	0.09	-	-	3	0.43	2	0.50	1	0.50	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	0.61	2	0.14	15	1.36	4	0.40	3	0.43	-	-	2	1.00	7	1.17
感染性胃腸炎	230	4.26	43	3.07	57	5.18	46	4.60	21	3.00	23	5.75	12	6.00	28	4.67
水痘	18	0.33	8	0.57	3	0.27	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	5	0.83
手足口病	21	0.39	11	0.79	1	0.09	-	-	-	-	2	0.50	1	0.50	6	1.00
伝染性紅斑	3	0.06	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	30	0.56	12	0.86	8	0.73	2	0.20	5	0.71	-	-	1	0.50	2	0.33
流行性耳下腺炎	68	1.26	24	1.71	31	2.82	8	0.80	3	0.43	1	0.25	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	1	0.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第34週 2016/08/22~2016/08/28)

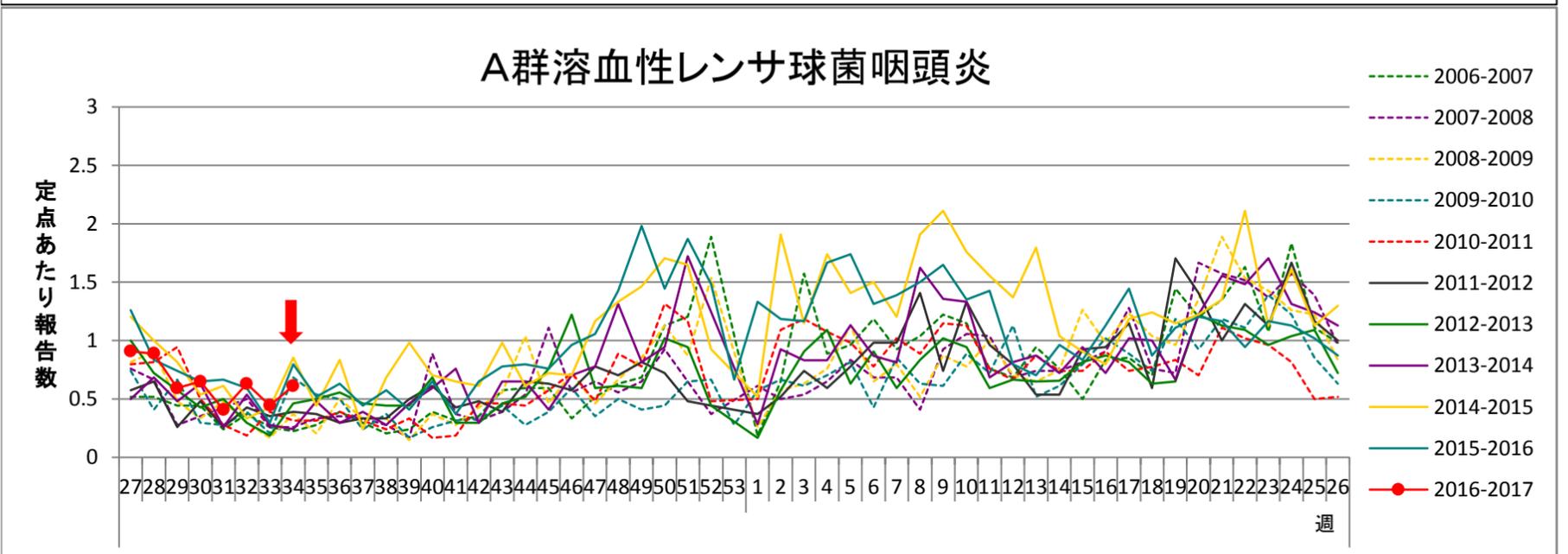
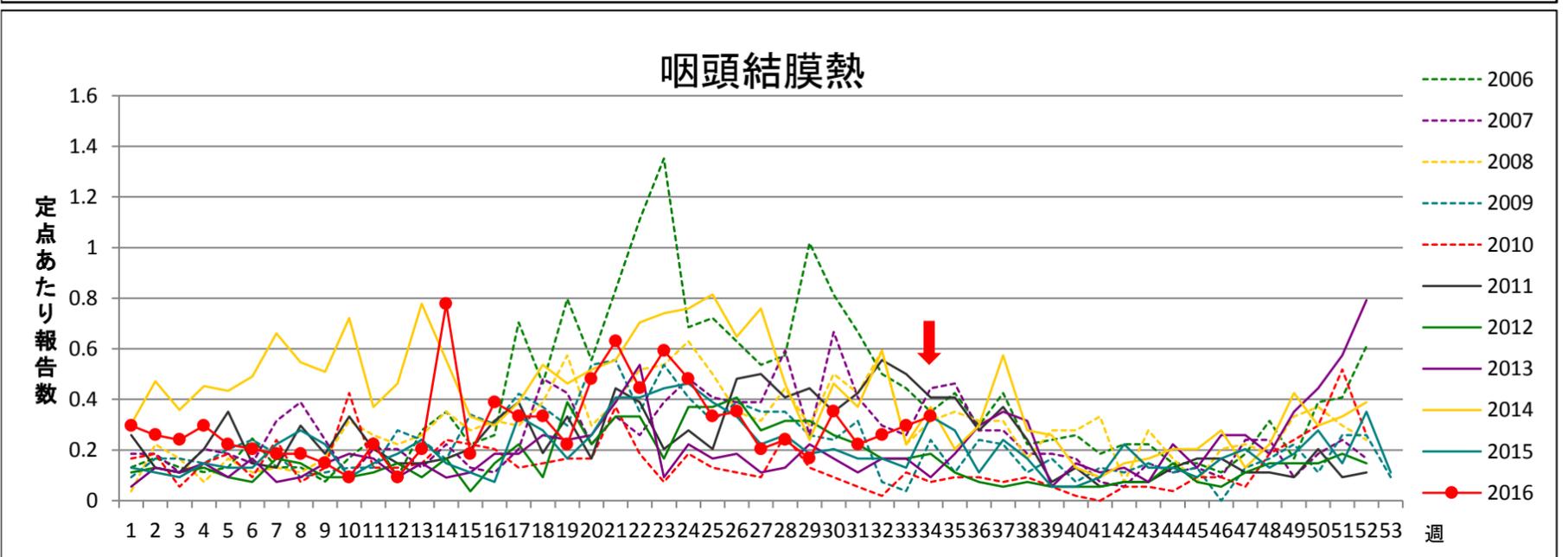
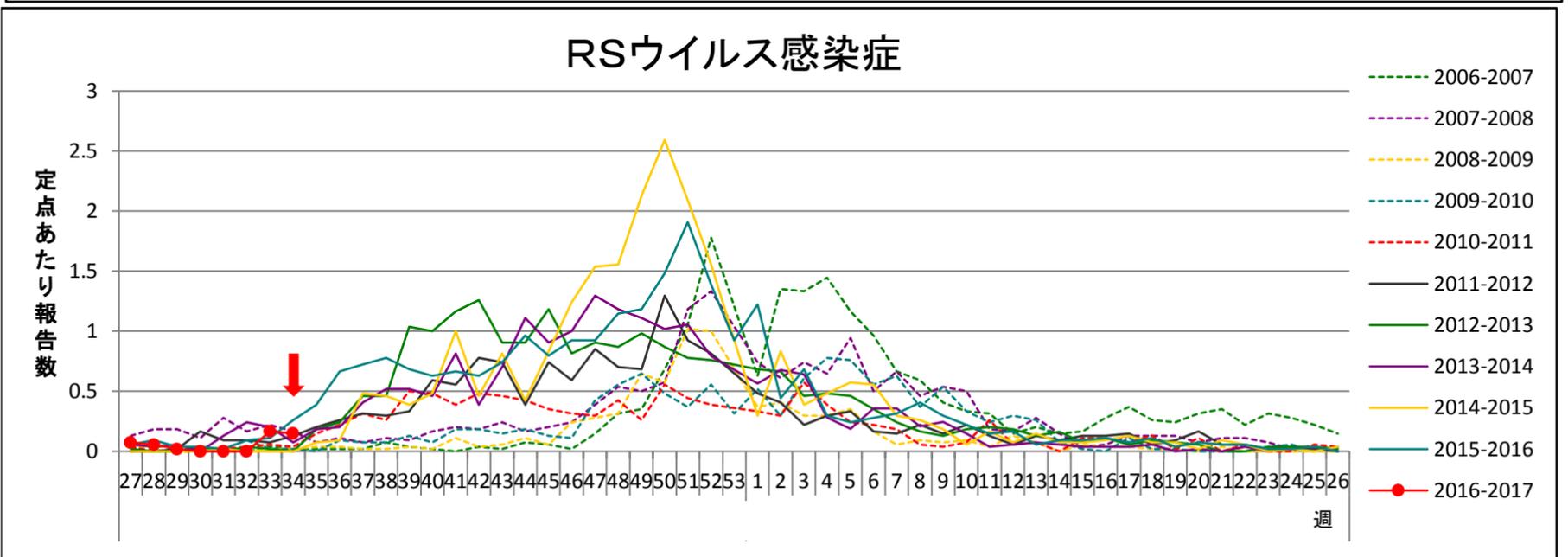
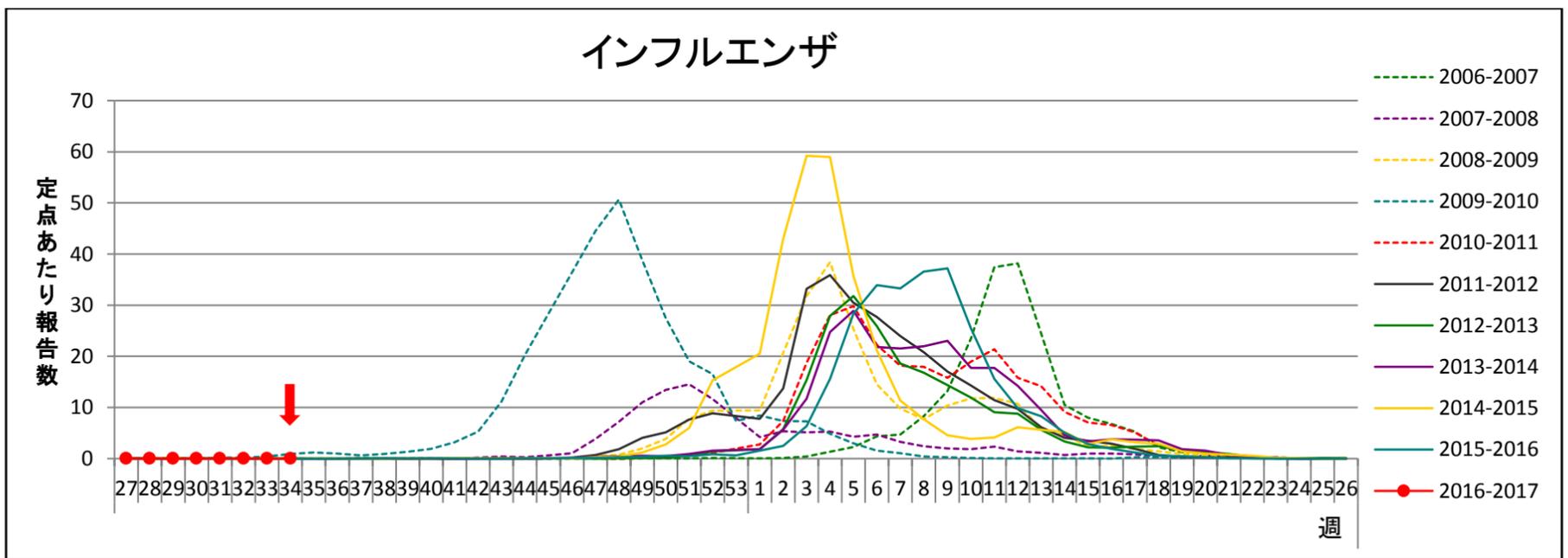
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	8	1	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	18	-	3	6	2	3	1	-	1	-	-	1	-	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	-	1	2	3	2	4	7	1	8	-	2	1	-	2
感染性胃腸炎	230	5	27	47	20	15	14	13	13	8	5	8	19	7	29
水痘	18	-	-	3	5	1	3	3	-	-	-	1	2	-	-
手足口病	21	-	2	5	7	4	1	-	-	1	-	-	-	1	
伝染性紅斑	3	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	34	1	14	17	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	30	2	2	7	1	3	2	6	3	2	1	-	1	-	
流行性耳下腺炎	68	-	-	5	3	14	9	16	7	3	3	4	2	-	2

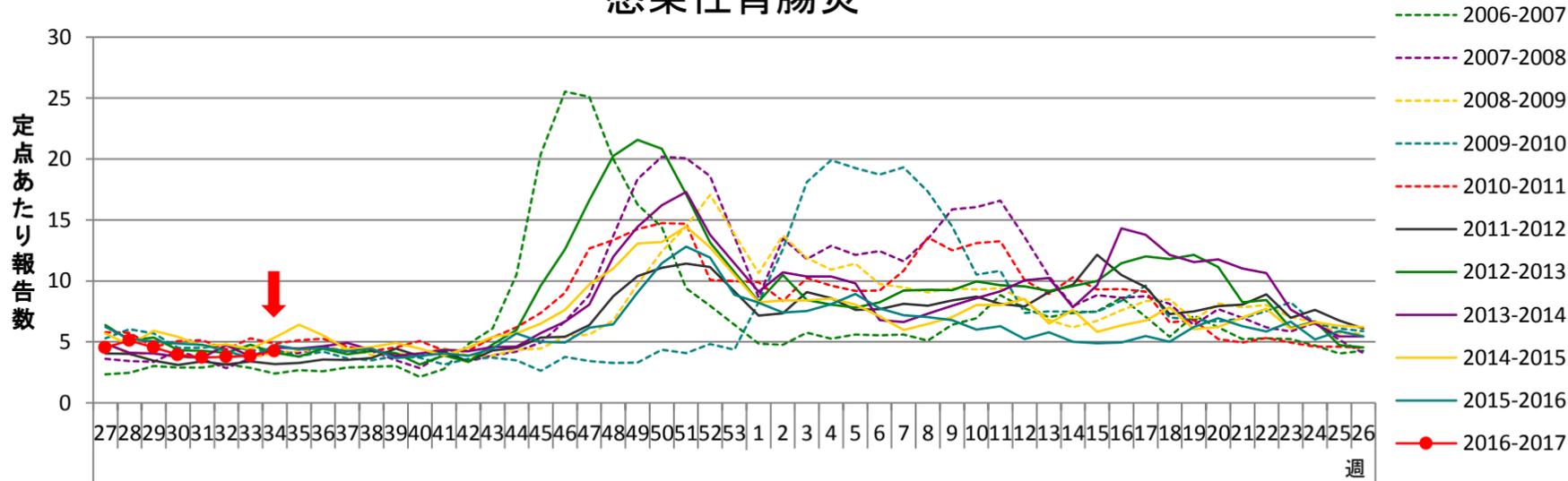
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

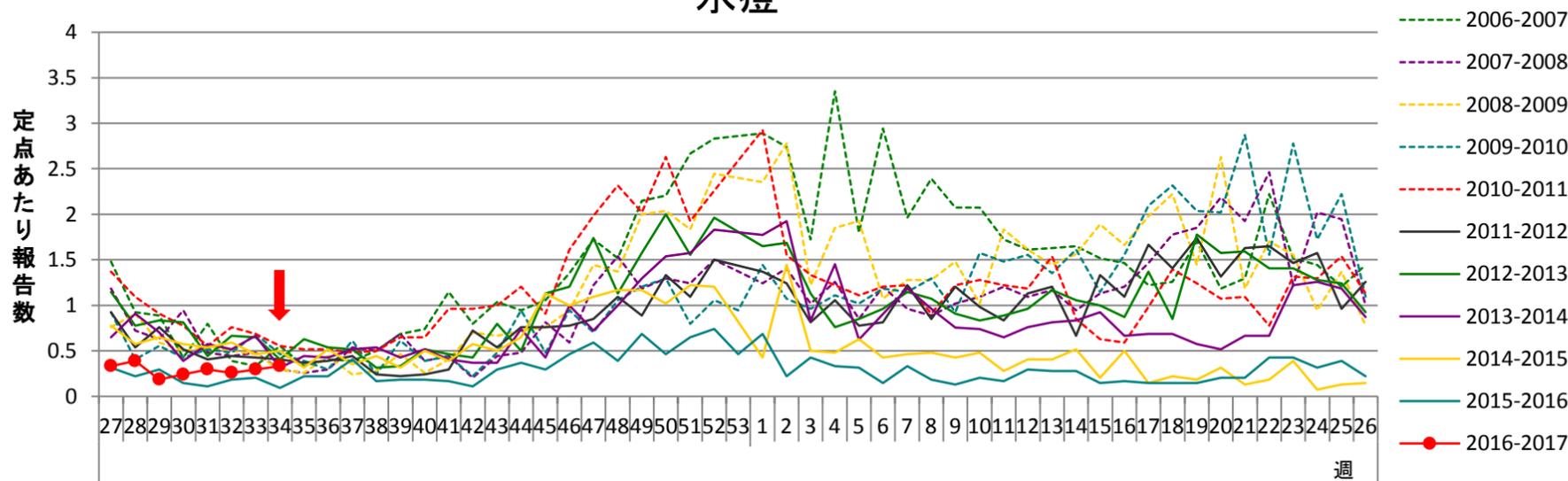
(- : 0)



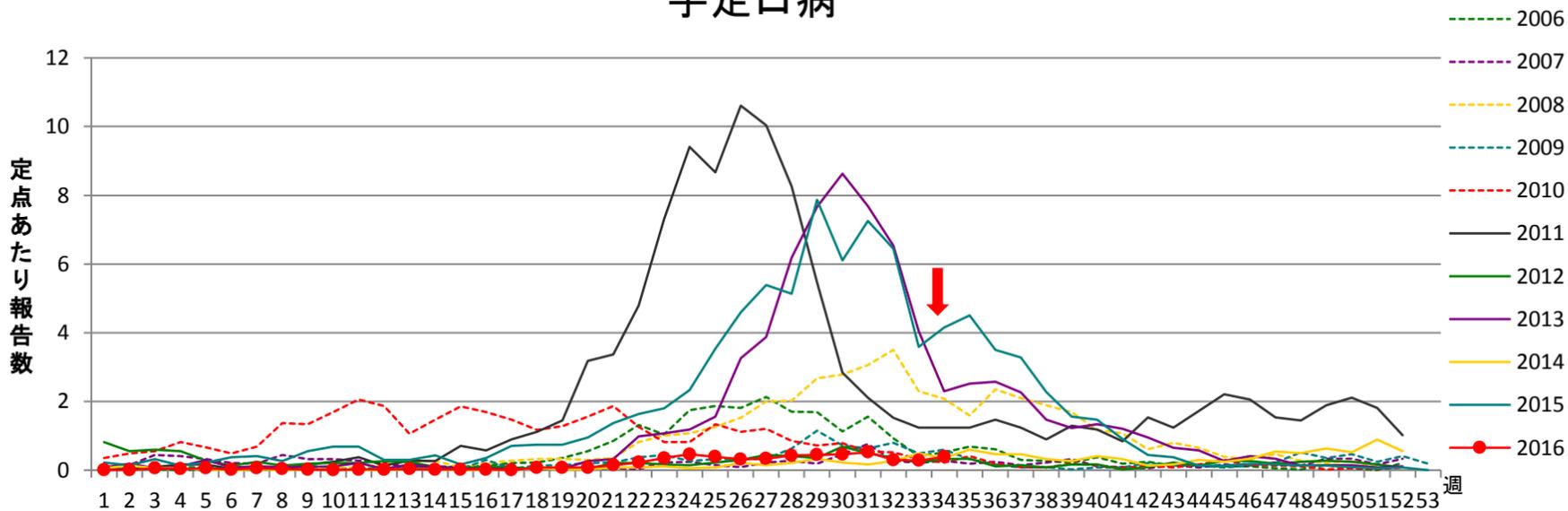
感染性胃腸炎



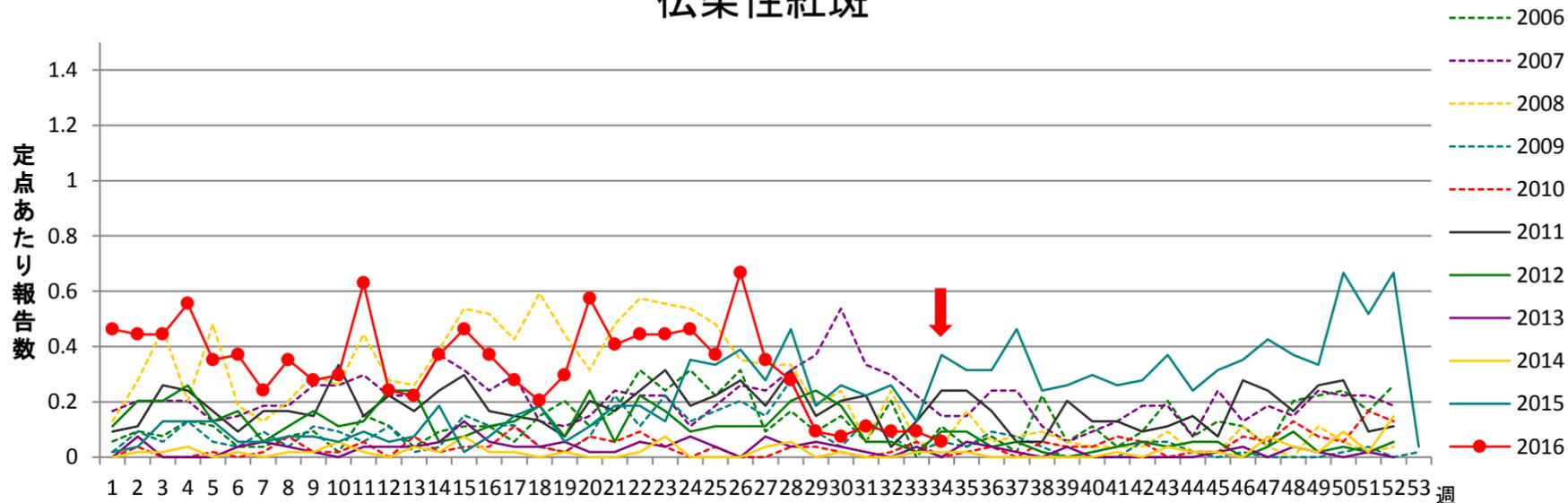
水痘



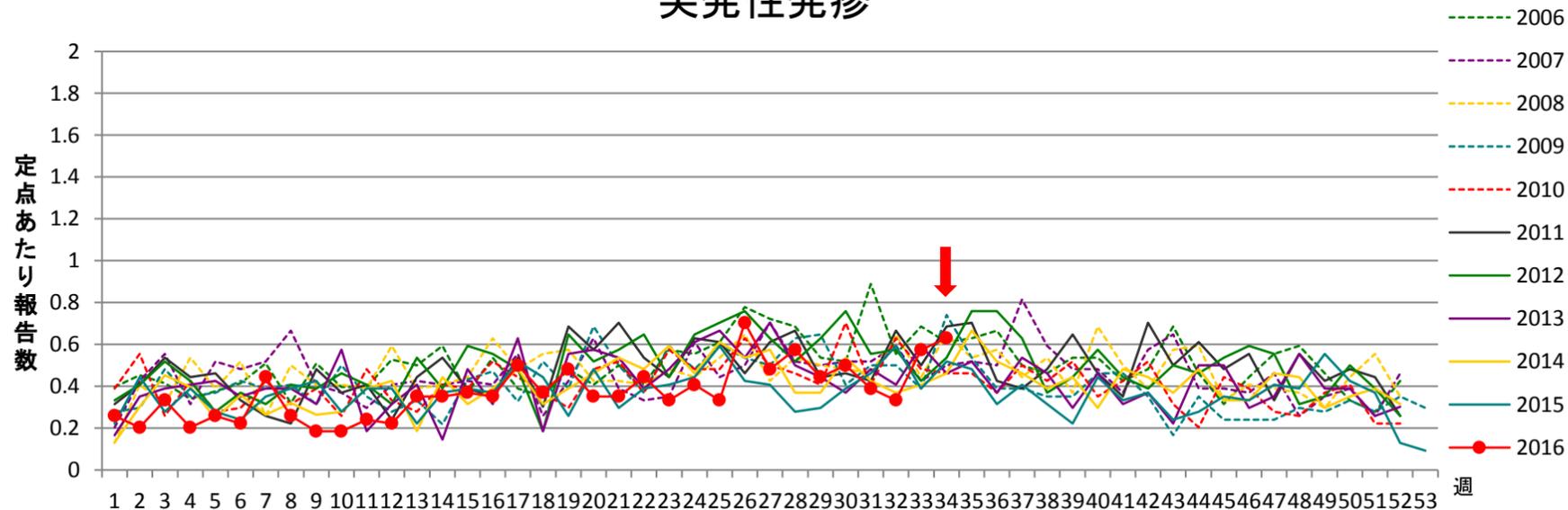
手足口病



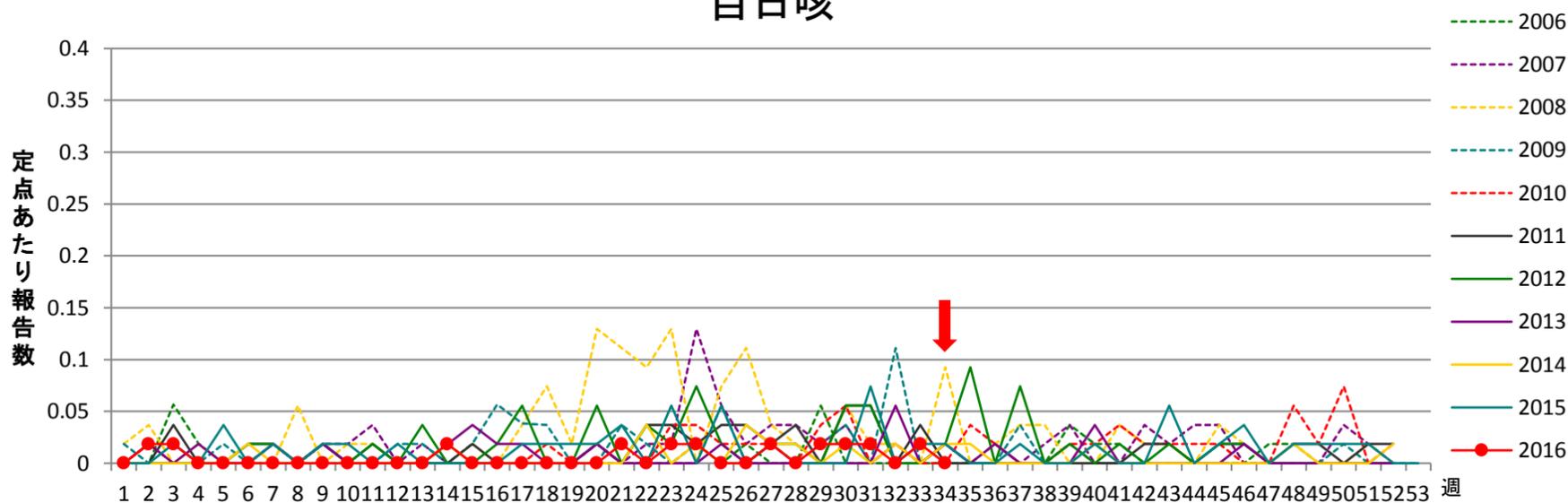
伝染性紅斑



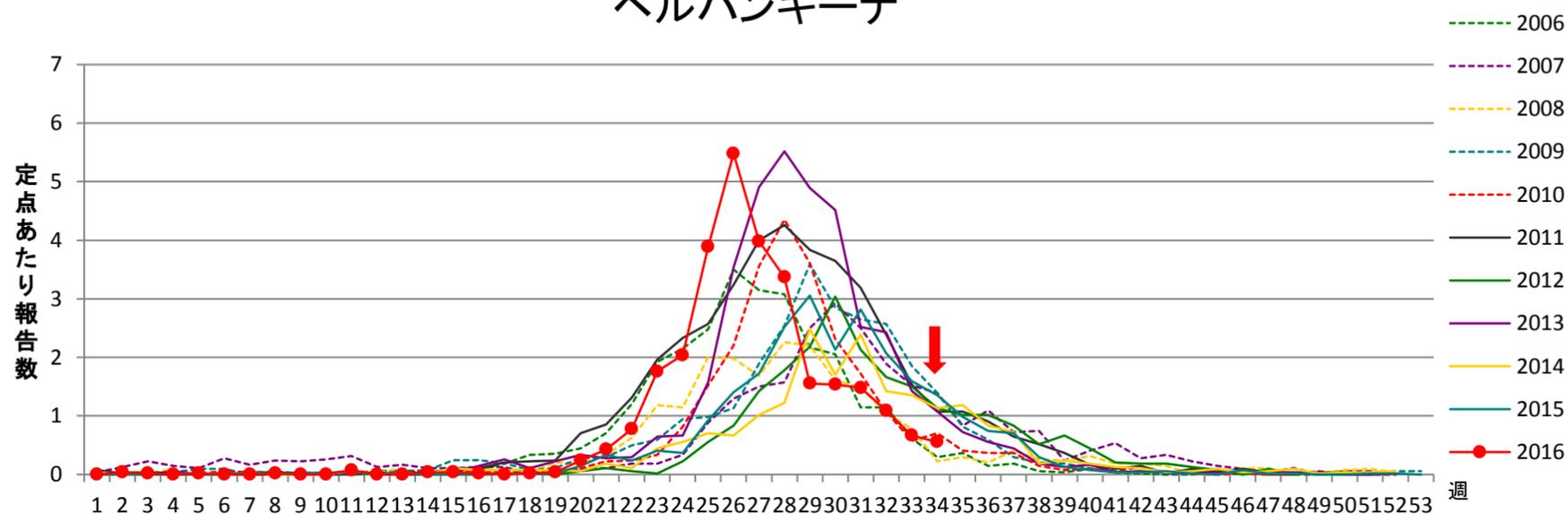
突発性発疹



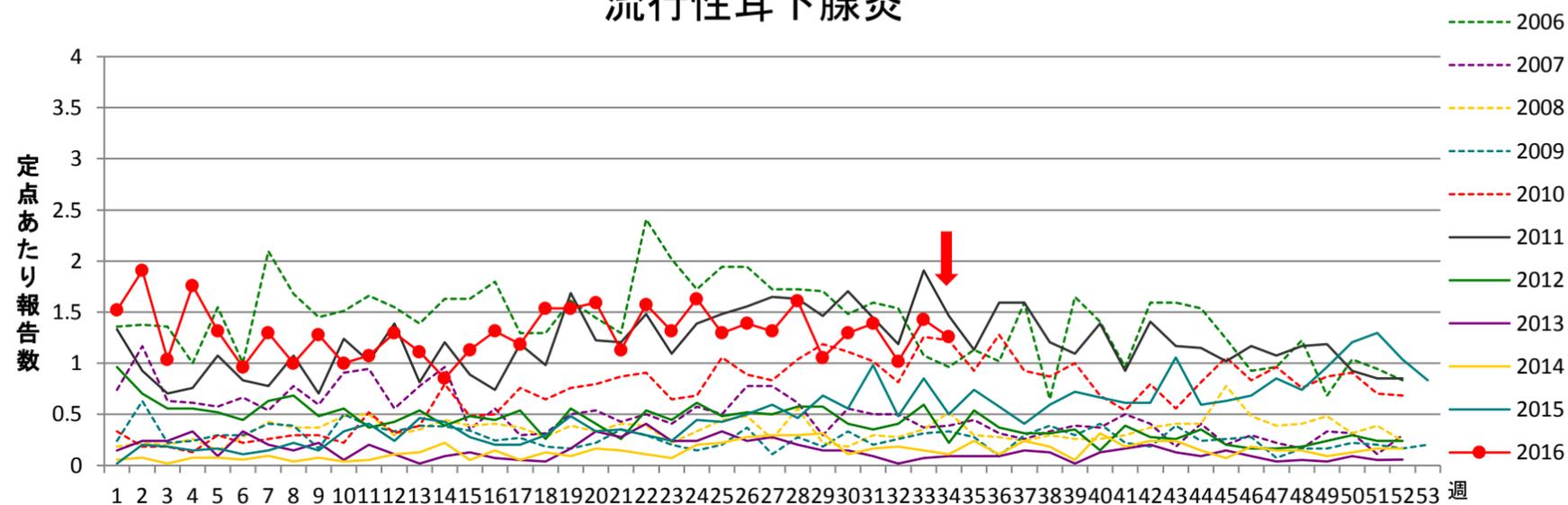
百日咳



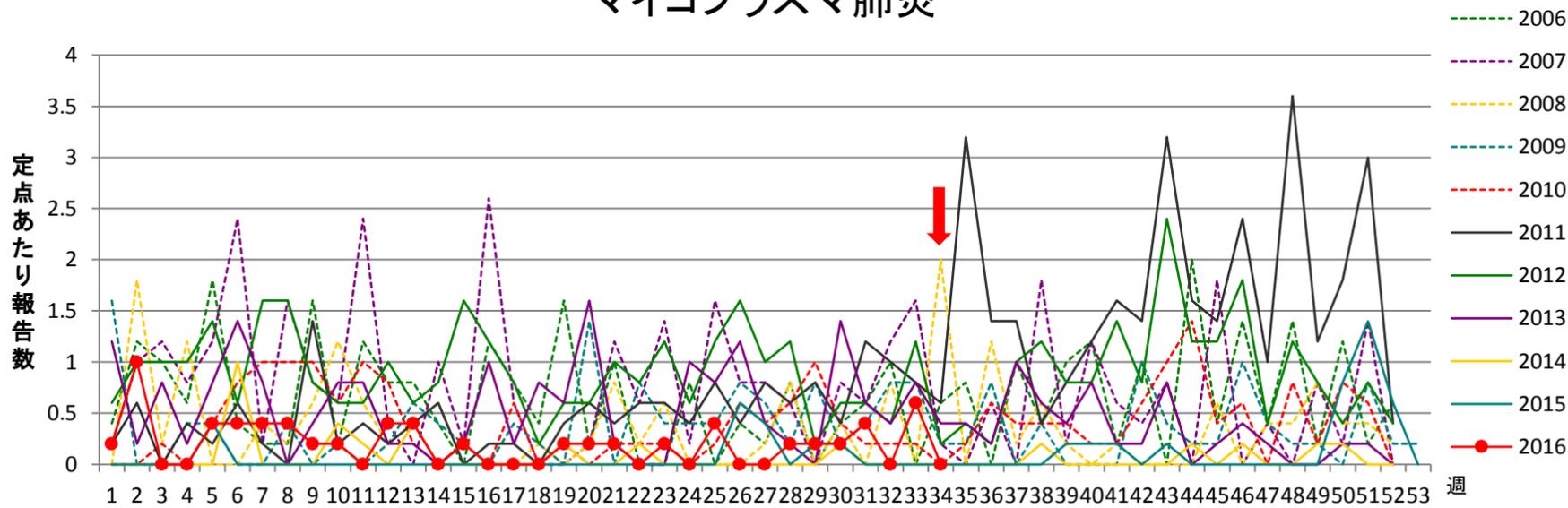
ヘルパンギーナ



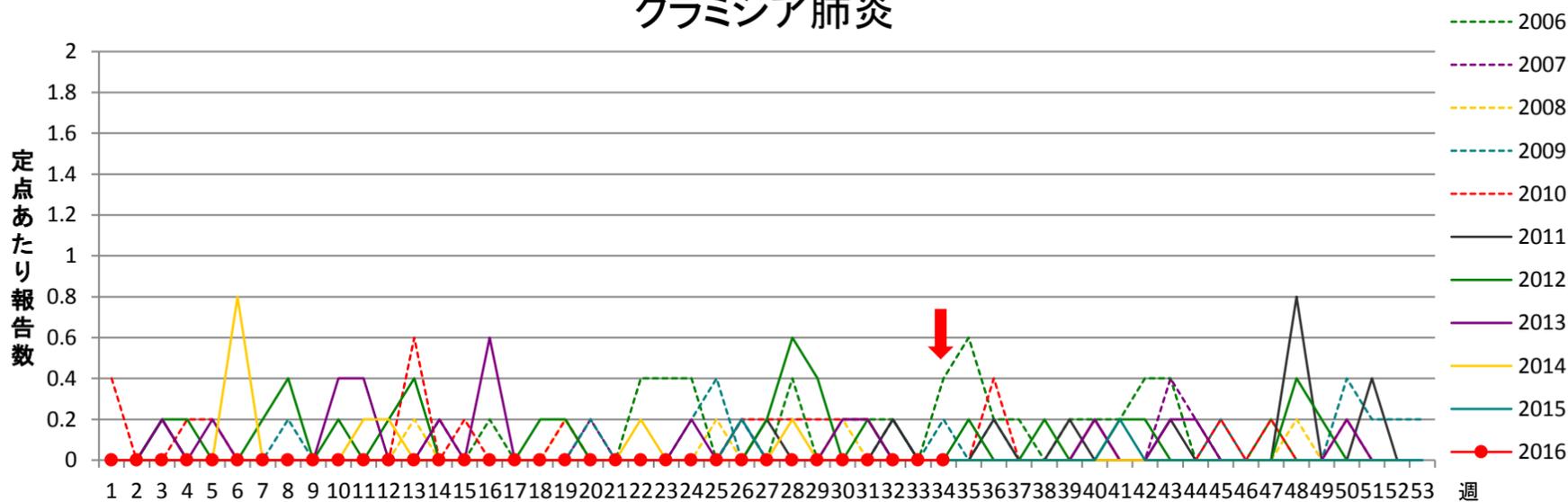
流行性耳下腺炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

